

青春

原作 サミニエル・ウルマン
邦訳 岡田 義夫

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。
優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、
安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。
年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。
歲月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。
苦悶や狐疑や不安、恐怖、失望、こう言うものこそ恰も長年月
の如く人を老いさせ、精氣ある魂をも芥に帰せしめてしまふ。
年は七十であろうと十六であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。
曰く驚異への愛慕心、空にきらめく星辰、その輝きにも似たる
事物や思想に対する欽仰事に處する剛毅な挑戦、小児の
如く求めて止まぬ探求心、人生への歡喜と興味。
人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる。
人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる。
希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる。
大地より、神より、人より、美と喜悦、勇氣と壯大、そして
偉力の靈感を受ける限り、人の若さは失われぬ。
これらの靈感が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までも蔽い
つくし、皮肉の厚氷がこれを固くとゞすに至れば、この時にこそ
人は全くに老いて、神の憐みを乞うる他はなくなる。